

フィリピンの感染症について

Hope Scoop Asiaでは、現地へ渡航される際の予防接種を参加者個人の判断にお任せしています。これは、予防接種についての考え方には個人差があり、また、稀に副作用が出る方がいらっしゃるためと、現地で滞在する施設や地域が比較的、衛生的なエリアであるため、予防接種が絶対に必要であるとは言い切れないためです。

以下に主なフィリピンの感染症と予防法、感染症に対応可能な医療機関をご紹介しますので、ご一読ください。

感染症・予防接種についてのご質問はHoScA事務局までご連絡下さい。

フィリピンの主な感染症

虫が媒介するもの

- マラリア
- デング熱
- 日本脳炎

食べ物・水から感染するもの

- 細菌性赤痢・アメーバ赤痢
- A型・E型肝炎
- コレラ
- 食中毒
- 腸チフス

その他

- B型肝炎
- 狂犬病
- 破傷風

主な感染症と予防

A型肝炎

潜伏期は2〜7週、発熱、倦怠感、黄疸が特徴。先進国でも魚介類には要注意。特効薬はなく治療は安静、対症療法のみ。通常は約1ヶ月で自然治癒。予防接種可能。

【感染経路】

感染者との接触、感染者の便で汚染された飲食物の経口摂取。

【対象者】

衛生状態の悪い国や地域への渡航者。バックパッカー。

【方法】

2〜4週間隔で2回、長期の抗体維持には6ヶ月後に追加接種1回。

【副反応】

軽度な疼痛、発赤、倦怠感などで重篤なものはなし。

【有効期間】

2回接種で数年。3回接種で少なくとも5年以上。

破傷風

破傷風菌は全世界の土壌中に存在。傷口に付いた土から破傷風菌が体内へ侵入して、開口障害を特徴とする神経症状を発症する。予防接種可能。

【感染経路】

野外活動時の創傷、刺傷。（傷口から土が入る場合）

【対象者】

海外長期滞在者。野外活動・救援活動をする場合。

【方法】

3〜8週間隔で2回。小児期に接種済みの場合は追加接種1回。

【副反応】

局所の発赤、腫脹、掻痒など。回数を重ねると増強することがある。

【有効期間】

ほぼ10年。

日本脳炎

潜伏期間は7〜10日。ブタなどの動物と、コガタアカイエカなどの蚊の間に相互に感染を繰り返す。稀に人がウイルスを保有した蚊に刺され感染する。感染しても2000人に1人の割合でしか発病しない。

【感染経路】

日本脳炎ウイルスを持つ蚊の吸血。

【対象者】

東南アジアの郊外や農村部への長期滞在者。

【方法】

1〜4週間隔で2回。1年後に1回。小児期に接種済みの場合は追加接種1回。

【副反応】

発熱、局所の発赤、腫脹など。きわめて稀に脳炎、脳症。

【有効期間】

3〜4年。

デング熱

媒介動物:蚊

発疹を伴う発熱、激しい頭痛、筋肉痛が特徴だが自然治癒する。2度目にかかるると重症化するといわれている。特効薬はなく対症療法のみ。予防接種なし。昼間活動するため、蚊に刺されないための工夫が必要。

マラリア

媒介動物:蚊

診断、治療が遅れると致命的になる場合がある。抗マラリア薬で治療。予防接種は研究段階だが、予防内服は可能。日没後に活動が活発化。夜間の外出・就寝時の虫除け対策が必要。

各種予防接種・予防薬料金目安(1回あたり)

A型肝炎	¥7,500	狂犬病	¥7,500
B型肝炎	¥5,700	日本脳炎	¥5,300
破傷風	¥3,400	マラリア予防薬	¥12,000

注意!旅の心得

出発前

- 体調を整えておく
- 常備薬・医薬品を用意する
- 必要なら予防接種を済ませる
- 心配事はスタッフに相談する

ツアー中

- 生ものを口にしない
- ミネラルウォーターを飲む
- 氷が入っている飲み物に注意
- 水分補給を心がける
- 野生動物には近づかない
- 長袖・長ズボンを着用するなど、防虫対策をする
- 無理は厳禁!

帰国後

- 1ヶ月以内に発熱した場合は要
注意。すぐに医療機関へ
- 診療の際は、フィリピンへいつ、
何日間行ってきたのかを必ず
医師に伝えること

各地の主な感染症に対応できる医療機関

北海道	市立札幌病院感染症科	011-726-2211
	〒060-8604 札幌市中央区北11条西13丁目1-1	
東北	国立病院機構仙台医療センター海外旅行外来	022-293-1111
	〒983-8520 宮城県仙台市宮城野区宮城野2丁目8-8	
関東 信越	東京慈恵会医科大学付属病院感染制御部	03-3433-1111
	〒105-0003 東京都港区西新橋3-25-8	
	国立感染症研究所感染症情報センター	03-5285-1111
	〒162-8640 東京都新宿区戸山1-23-1	
	東京大学医学科学研究所感染免疫内科	03-5449-5337
	〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1	
	東京都立駒込病院	03-3823-2101
	〒113-8677 東京都文京区本駒込3-18-22	
	防衛医科大学校衛生学	042-995-1563
	〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2	
	国立国際医療センター国際疾病センター渡航者健康管理室	03-3202-7181
	〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1	
	東京都立墨堤病院感染症科	03-3633-6151
	〒130-8575 東京都墨田区江東橋4-23-15	
	横浜市立市民病院感染症部	045-331-1961
〒240-8555 横浜市保土ヶ谷区岡沢町56		
労働者健康福祉機構海外勤務健康管理センター	045-474-6043	
〒222-0036 神奈川県横浜市港北区小机町3211		
新潟市民病院健康管理室	025-241-5151	
〒950-8739 新潟市紫竹山2-6-1		

中部	名古屋市立大学大学院医学研究科宿主・寄生体関係学	052-853-8184
	〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地	
近畿	国立病院機構三重病院国際保健医療研究室	059-232-2531
	〒514-0125 三重県津市大里窪田町357番地	
四国	京都市立病院感染症科	075-311-5311
	〒604-8845 京都府京都市中京区壬生東高田1-2	
	大阪市立総合医療センター感染症センター	06-6929-1221
	〒534-0021 大阪市都島区都島本通り2丁目13番22号	
九州	りんくう総合医療センター市立泉佐野病院感染症センター	072-469-3111
	〒598-0048 大阪府泉佐野市りんくう往来北2-23	
沖縄	愛媛大学医学部病囚・病態学講座寄生虫病原体学分野	089-960-5285
	〒791-0295 愛媛県東温市志津川454	
	長崎大学医学部付属病院感染症内科	095-849-7384
	〒852-8501 長崎県長崎市坂本1丁目7番1号	
	福岡市立こども病院感染症センター	092-713-3111
九州	〒810-0063 福岡市中央区唐人町2-5-1	
	宮崎大学医学部付属病院感染症外来	0985-85-9224
	〒889-1692 宮崎県宮崎郡清武町大字木原5200	
	国立病院機構長崎医療センター	0957-52-3121
沖縄	〒856-8562 長崎県大村市久原2丁目1001-1	
	琉球大学医学部付属病院	098-895-3331
〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上間207		

*その他、各地検疫所などでも情報が得られます。

無理をせず、ちょっとした注意と心がけで安全なツアーを!

HopeScoopAsia

〒197-0022 東京都福生市本町94-9 山本ビル1階
TEL/FAX 042-552-7400(月-土・9時-18時)